

令和8年度(2026年度)

長岡市子ども議会 活動報告書



開催日:令和 8 年 8 月 8 日(土)

会 場:長岡市議会議場

主 催:長岡市議会

目次

はじめに	1
1 開催概要	2
2 日程・中学生議員一覧	3
3 出席者	4
4 一般質問一覧	5
5 一般質問・答弁の内容	6
6 事前学習の様子	14
7 当日の様子	20
8 アンケート結果の概要	22

はじめに

長岡市議会では、令和7年3月に制定した「長岡市子ども・若者の権利条例」の考え方を実際の取組につなげるため、令和8年度に初めて「長岡市子ども議会」を開催しました。

子ども議会は、市内の中学生のみなさんが「議員」となり、日頃の生活で感じていることや地域への思い、「もっとこうなったらいいな」という願いや提案を、自分の言葉で発表する場です。今回は、実際の議場で本会議と同じように一般質問を行い、市長や教育長から答弁がありました。当日は、緊張感のある中でも、参加者一人一人が堂々と発言する姿が印象的でした。

また、事前学習では、議会の仕組みや質問の流れを学び、グループで話し合いながら、自分たちの考えを整理していきました。居場所づくりや安全な通学路など学校生活に関わることから、中山間地や環境、イベントなど地域に関することまで、さまざまなテーマについて真剣に考えられた意見や質問には、長岡の未来をよりよくしたいという思いが込められていました。

この取組は、質問をするだけでなく、他の人の意見を聞き、自分の考えを相手に伝える言葉で表現する大切な学びの機会でもあります。参加したみなさんが、議会や行政の仕組みにふれ、社会とのつながりを感じるきっかけとなることを願っています。

この報告書では、令和8年度長岡市子ども議会の開催概要や一般質問と答弁の内容、事前学習及び当日の様子などをまとめています。参加者のがんばりや思いを伝えるとともに、今後の子ども議会をよりよいものにしていくための参考となれば幸いです。

子ども議会実行委員会

1 開催概要

◆ 目的	長岡市子ども・若者の権利条例に基づき、議会として、子ども・若者の権利を尊重し、意見の表明及び社会参画の環境と機会の充実に図り、市政や議会への関心を高めるとともに、社会の一員としての意識を育むことを目的とする。
◆ 主催	長岡市議会
◆ 日時	令和8年8月8日（土曜日）午後2時から午後4時まで
◆ 開催場所	長岡市議会議場
◆ 参加者	市内の中学校生徒 13名（公募による）
◆ 議会の形式	本会議と同様の形式で、長岡市議会議長の議事進行により、参加する中学生が一般質問を行い、市長・教育長が答弁する方式で行う。
◆ 市側出席者	市長、教育長
◆ 事前学習	①オリエンテーション、グループワーク （7月11日（土）午前10時～正午） ・議会の役割や仕組み、一般質問について説明 ・グループごとに質問内容を検討 ②質問原稿の完成、リハーサル （7月25日（土）午前10時～正午） ・質問内容の確認、質問原稿完成 ・リハーサル

2 日程・中学生議員一覧

(1) 日程 令和8年8月8日(土) 午後2時開会

- 開会・進行説明
 - ・本日の流れ説明
 - ・中学生議員任命
- 開会あいさつ
- 子ども議会
 - ・議席の指定
 - ・会期の決定
 - ・一般質問
- 閉会あいさつ
- 記念撮影

(2) 中学生議員一覧

班	学校	学年	氏 名	質問テーマ
1 班	南中学校	3 年生	北原 昂	子どもたちが長岡に残りたいと思えるまちづくりについて
	山本中学校	3 年生	加藤 亜樹	
	越路中学校	3 年生	白井 陽麗	
2 班	西中学校	3 年生	田中 泰成	充実した学校生活について
	越路中学校	2 年生	水品 志穂	
	附属長岡中学校	1 年生	阿部 桃奈	
3 班	秋葉中学校	3 年生	澁谷 愛莉	未来を担う若者が新しい視点で考えた住みやすい地域モデルの提案について
	西中学校	3 年生	塩尻 鼓夏	
	北中学校	2 年生	諏訪野 楓	
	越路中学校	1 年生	高橋 蓮奈	
4 班	堤岡中学校	3 年生	高村 晋平	長岡の魅力を高め、よりよく暮らしていくための施策について
	越路中学校	2 年生	鈴木 花音	
	西中学校	1 年生	笠原 紗奈	

3 出席者

◎中学生議員（１３人）

北原	昂	議員	加藤	亜樹	議員
白井	陽麗	議員	田中	泰成	議員
水品	志穂	議員	阿部	桃奈	議員
澁谷	愛莉	議員	塩尻	鼓夏	議員
諏訪野	楓	議員	高橋	蓮奈	議員
高村	晋平	議員	鈴木	花音	議員
笠原	紗奈	議員			

◎説明のために出席したもの

磯田	達伸	市長	金澤	俊道	教育長
----	----	----	----	----	-----

◎正副議長

池田	和幸	議長	中村	耕一	副議長
----	----	----	----	----	-----

◎子ども議会実行委員

加藤	尚登	議員	池田	明弘	議員
波多	恵理	議員	高橋	美里	議員
二ツ家	和樹	議員	長坂	将志	議員
笠井	綾華	議員	豊田	朗	議員
大竹	雅春	議員	酒井	正春	議員

◎参加市議会議員

三澤	寛人	議員	金子	陽奈子	議員
松野	憲一郎	議員	多田	光輝	議員
神林	克彦	議員	服部	耕一	議員
田中	茂樹	議員	五十嵐	良一	議員
山田	省吾	議員	桑原	望	議員
松井	一男	議員	丸山	勝総	議員
藤井	達徳	議員	関	貴志	議員
笠井	則雄	議員			

一般質問一覧

【1班】 北原 昂 議員 加藤 亜樹 議員 白井 陽麗 議員

- ◎ 子どもたちが長岡に残りたいと思えるまちづくりについて
 - ① 空きスペースを中学生が利用できる場所にするについて
 - ② 地域イベントを通じた地域住民のつながりの復活について
 - ③ 長岡花火に次ぐビッグイベントで財源を循環させることについて

【2班】 田中 泰成 議員 水品 志穂 議員 阿部 桃奈 議員

- ◎ 充実した学校生活について
 - ・ 快適に過ごすための設備環境と移動について
 - ① 学校の図書室の放課後開放について
 - ② タブレット端末の使用環境について
 - ③ 学校の設備について
 - ④ 歩道の自転車や安全性について
 - ⑤ 冬期間における登下校の状況について
 - ⑥ 夜道の歩道照明について

【3班】 澁谷 愛莉 議員 塩尻 鼓夏 議員 諏訪野 楓 議員 高橋 蓮奈 議員

- ◎ 未来を担う若者が新しい視点で考えた住みやすい地域モデルの提案について
 - ・ 地域インフラの課題について
 - ① 通学路における標識や点字ブロックなどの老朽化への対応について
 - ② 通学路の除雪や路面凍結対策について
 - ・ 少子高齢化、過疎化による地域の対処について
 - ① 中山間地域における人口減少の現状把握と課題認識について
 - ② 学校における防災教育の充実について
 - ・ 生活環境の課題について
 - ① ポイ捨てなどのごみ対策の現状と課題について
 - ② 公共ごみ箱の設置を含めた今後の生活環境美化の取組について
 - ・ 生徒の目線から見た学校の課題について
 - ① 学校での暑さ対策と水分補給の考え方について
 - ② 一人ひとりに応じた学習形態や学びの支援について

【4班】 高村 晋平 議員 鈴木 花音 議員 笠原 紗奈 議員

- ◎ 長岡の魅力を高め、よりよく暮らしていくための施策について
 - ① 長岡花火のチケット販売や迷惑駐車対策について
 - ② 中高生の居場所づくりと同世代の交流機会の充実について
 - ③ 自転車が安全に通行するための現状把握とその対策について

5 一般質問・答弁の内容

◆1班（北原 昂 議員、加藤 亜樹 議員、白井 陽麗 議員）

【テーマ】子どもたちが長岡に残りたいと思えるまちづくりについて

【質問要旨】

- ・長岡駅から離れた地域では、自習スペースとして利用できる施設が少なく、また、閉園した保育園や閉校施設など、十分に活用されていない施設が地域に存在していると感じている。そこで、現在、市内のどの地域に中学生が利用できる身近な学習スペースが整備されているのかとともに、市が所有する閉園・閉校施設の再利用状況及び未利用施設の現状について伺う。さらに、市有施設や民間施設の未利用スペースを学習スペースや中学生の居場所として活用することについて、市の考えを伺う。

（加藤 亜樹 議員）

- ・私は、長岡市は今よりもっと地域住民に愛される場所であってほしいと願っている。しかし、コロナ禍以降、地域住民との交流やつながりが減ってしまったと感じている。地域のお祭りのような行事があれば、普段話す機会のない地域の方々とも自然につながることができる。このような小さな思い出や温かいつながりを体験することで、「将来も長岡に残りたい」と思う子どもが増えるのではないだろうか。そこで、地域行事を復活させる上での課題や、地域行事の再生に向けた支援策と今後の方向性について伺う。（白井 陽麗 議員）

- ・長岡には長岡花火という全国的に知名度の高い大きなイベントがあり、長岡の経済に大きな影響を与えている。一方で、夏と冬の観光客数には大きな差があり、冬の観光客数を増やし通年観光を実現することで、観光収入の増加につながると考える。そこで、市が進めている通年観光の取組に対する現状認識や、これまでの成果について伺う。また、「豪雪を生かした雪合戦などの体験型イベント」などの拡充、花火来場者に夏以外のイベントへの参加を促す取組、需要に応じた料金設定の導入などによる観光振興について、市の考えを伺う。さらに、こうした取組によって得られた財源を、空きスペースの再利用や地域イベントの運営に生かし、『子どもたちが長岡に残りたいと思えるまちづくり』につなげる観光による財源確保の仕組みについて伺う。

（北原 昂 議員）



◆答弁要旨

- ・現在、学習スペースやフリースペースなど学習ができる施設は、長岡駅周辺を除いても、川東地区では各地域図書館やさいわいプラザなど4施設、川西地区では西地域図書館、各支所地域ではトチオーレ、いこいね☆よいたなど15施設である。ただし、いずれも学習専用施設ではなく、学習コーナーなどを設けているものである。閉園・閉校施設については、直近10年間で25施設あり、市が現在も管理している18施設のうち6施設は消防署や文化財倉庫などの行政用途で再利用し、12施設が未利用である。未利用施設を専用の学習スペースとして活用するには、管理人の配置や施設管理の方法、維持管理費を含めた費用に見合う利用があるのかなどを考える必要がある。一方で、地域による学習環境の差を少しでも改善したいという提案の趣旨を受け止め、民間施設や学校を含む既存施設の空きスペースの活用について検討していく。
- ・祭りや地域行事を通じて住民同士のつながりを広げ、地域コミュニティをしっかりと作ることが大切であると認識している。しかし、コロナ禍で地域行事等が一時的に中止された後も再開に至らない状況があることに加え、人口減少や高齢化により、地域行事の担い手が少なくなり、準備や運営の負担も大きくなっていることが課題である。市では、越路地域のもみじ園や蛸など、地域の宝を次の世代につなぐ活動に対し、必要に応じて財政面や人的面で支援している。地域で盛り上げたい取組があれば、市としてもその動きを支援していく。若い世代が地域活動に関心を持ち、自ら参加しようとすることは大変心強く、今後も地域の主体的な活動を後押ししていく。
- ・市では米百俵フェスや、摂田屋・宮内地区の発酵・醸造文化を生かしたまちづくりなど、長岡の魅力を高める取組を進めている。観光によって交流人口を増やし、地域の店や事業者によくの人が訪れることで、地域経済の循環につながると考えている。一方で、行政が直接大きな利益を生み出し、それをさまざまな事業に回すような仕組みをつくることは容易ではなく、投資額以上の収益を上げることの難しさもある。そのため、長岡の魅力を少しずつ高め、来訪者を増やしていく地道な取組が重要である。提案のあったイベントの拡充、花火来場者のリピーター化、需要に応じた柔軟な料金設定は観光振興に有効な視点である。また、冬の食文化を楽しめる「ながおかウィンターフェス」なども育てながら、通年観光による観光消費額の増加、地域産業の活性化、長岡ファンづくりに引き続き取り組んでいく。

◆2班（田中 泰成 議員、水品 志穂 議員、阿部 桃奈 議員）

【テーマ】充実した学校生活について

【質問要旨】

- ・放課後に勉強したくても図書室が利用できず、静かに学習できる場所がないことから、図書室を自習室として利用したいという生徒のニーズを市がどのように把握しているのかを伺う。また、安全に勉強できる放課後の居場所づくりの観点から、地域の協力を得た図書室開放の可能性や今後の方向性について伺う。（水品 志穂 議員）
- ・タブレット端末について、多くの生徒がその機能を十分に活用できていない現状を踏まえ、今後どのように学習へ活用していくのか具体的な方法を伺う。また、生成AIを活用したファクトチェックなど、生成AIの利用に関する課題や今後のルールのある方、規制の緩和を含めた考え方について伺う。（田中 泰成 議員）
- ・夏場の登下校時の暑さでは、ネッククーラー等の保冷効果が下校時には失われる。また、エアコンのない特別教室では熱中症も懸念される。そこで、全教室への冷凍庫やエアコンの設置が可能なのか、また、設置が困難な場合の暑さ対策について市の考えを伺う。（阿部 桃奈 議員）
- ・歩道は通学や地域生活に欠かせないものであるが、自転車が走行可能な歩道なのか分かりにくい場所や歩道が整備されていない通学路も見られることから、安全で利用しやすい歩道環境の整備に向けた今後の対策や、新たな歩道整備に対する市の見解を伺う。（田中 泰成 議員）
- ・冬期間における登下校時の安全確保のため、通学路の除雪について現在どのような対策を行っているのかを伺う。また、除雪の充実に向けた取組や、実施が難しい場合の対応策について伺う。（阿部 桃奈 議員）
- ・冬場や部活動後には通学路が暗くなる場所があり、安全面への不安があることから、市が危険箇所をどのように把握しているのかを伺う。また、暗い歩道の調査やLED街路灯の増設など、安全な登下校環境の確保に向けた今後の方向性について伺う。（水品 志穂 議員）



◆答弁要旨

- ・学校の図書室を放課後に開放し、自習室として利用したい声があることは認識している。一方で、見守り体制、緊急時の対応、けがや事故が発生した場合の責任の所在など、整理すべき課題がある。地域や保護者の協力を得て、教職員に過度な負担をかけずに開放する視点は現実的な方策であり、学校運営協議会において、各学校に合わせた取組が進められるよう情報提供していく。
- ・タブレット端末については、調べ学習や課題解決、学習内容の定着など、学びを深める道具として活用している。今後も学年や教科に応じた効果的な活用方法を学校へ伝える。生成AIは学習支援に有効である一方、誤情報や個人情報の取扱いなどの課題があるため、安全で効果的な活用方法の検討を進めている。また、フィルタリングの見直しも検討していく。
- ・エアコンの設置については、理科室と音楽室には来年度までに市内全ての小・中学校で完了する予定であり、その他の特別教室も令和17年度完了を目標に整備を進める。設置完了までの間は、暑さ指数を踏まえた教室の選択や授業内容の変更など、各学校の実情に応じて熱中症対策を進める。また、冷凍庫の全教室設置は有効であるが、限られた予算の中で、まずはエアコン整備を優先する。
- ・自転車は車道通行が原則であるが、標識がある場所や交通量が多く危険な場所では歩道通行も可能である。市では自転車ネットワーク計画に基づき、カラー舗装や路面標示により走行場所を分かりやすくする整備を進めている。歩道の新設は有効であるが、用地確保などの課題もあるため、学校や地域の声を踏まえて対応していく。
- ・冬期間の通学路の歩道については、一般の歩道より優先して除雪している。また、中学校周辺への消雪パイプ整備も進めている。大雪時には全ての歩道を登下校時までに除雪することが難しい場合もあるが、学校や地域からの情報を踏まえ、歩行困難な箇所へできるだけ早く対応し、効果的な除雪対策と安全な通学環境の整備を進める。
- ・夜道の歩道照明については、通学路の安全点検により危険箇所の把握に努めている。道路照明灯は交差点や横断歩道などを中心に整備し、町内会が管理している防犯灯の新設・更新は、市が補助している。今後も学校や地域の声を踏まえ、安全で安心な通学路環境の整備に努める。

◆3班（澁谷 愛莉 議員、塩尻 鼓夏 議員、諏訪野 楓 議員、高橋 蓮奈 議員）

【テーマ】未来を担う若者が新しい視点で考えた住みやすい地域モデルの提案について

【質問要旨】

- ・通学路には、「止まれ」の標識が古くなって見えにくい箇所や、点字ブロックが剥がれて必要なときに役に立たないと思われる場所があることから、老朽化した標識や点字ブロックについて、市が修繕や交換、必要に応じた新設を行う考えがあるのかを伺う。また、冬期間には歩道に雪が高く積もり通れなくなることや、消雪パイプの水が凍って滑る危険があるため、通学路の除雪や路面凍結対策など、事故の可能性を低くする市の取組について伺う。（塩尻 鼓夏 議員）
- ・少子高齢化や過疎化が進む中、中山間地域では人口減少に加え、災害時の避難、農業の担い手不足、熊の出没など地域ならではの課題が増えていることから、市が地域の現状をどのように把握し、どのような対策を進めているのかを伺う。また、過去の災害や熊の出没時の対応、住民へのアンケート調査や見回りによる地域の声の把握、より安全な避難方法について伺う。さらに、学校での防災教育の充実に対する市の考えを伺う。（澁谷 愛莉 議員）
- ・通学路や地域では、お菓子の袋やプラスチック容器などのポイ捨てが見られ、長岡まつり大花火大会の後にも多くのごみが残されることから、市が現状をどのように把握し、どのような課題があると考えているのかを伺う。また、環境美化重点地域での清掃活動や花壇の設置などの取組の成果や課題を伺う。さらに、ホノルル市のような中心市街地や通学路への公共ごみ箱の設置を含めた、今後の方向性について市の見解を伺う。（諏訪野 楓 議員）
- ・子どもや保護者の声を聞きながら、一人ひとりに合った学校づくりを進めるため、市が意見をどのように集め、学校環境の整備に生かしているのかを伺う。また、暑さ対策として授業中に定期的な水分補給の時間を設けることについて、市の考えを伺う。さらに、自分に合った学習方法が分からず悩む子ども、多くの人と過ごすことに負担を感じる子どもなど、一人ひとりの状況や特性に応じた学習方法や学校以外の学びの周知等の支援の考え方や現状の取組を伺う。（高橋 蓮奈 議員）



◆答弁要旨

- ・通学路の標識や視覚障害者誘導用ブロックは、歩行者や自転車が安全に通行するために必要な施設であり、老朽化や破損は安全上の課題である。市では、地域や学校からの要望、道路パトロールなどにより状況を把握し、必要に応じて新設や修繕を行っている。「止まれ」などの交通標識は警察、消火栓標識は消防本部が管理しているため、関係機関と連携し、早期対応に努める。また、冬期間は通学路の優先的な除雪、消雪パイプの点検や歩道の排水対策などにより、安全で歩きやすい通学環境の確保に取り組む。
- ・中山間地の現状や課題について、国勢調査などの統計データ、住民アンケート、町内会、民生委員、集落支援員などとの対話を通じ、把握に努めている。熊や猿、猪の出没、学校の統廃合、祭りやイベントの担い手確保、地域産業の活性化など、課題は地域ごとに異なるため、住民に寄り添いながら対応していく。災害時には、危険箇所の周知や早めの避難の呼びかけ、自主防災会の活動支援などにより、地域で助け合う避難体制づくりを進める。また、学校では「防災玉手箱」や「わが家の防災タイムライン」などを活用した学習を行っているが、災害時に自ら考え、適切に行動できる力を育む防災教育のさらなる充実に努める。
- ・ごみのポイ捨てをなくすため、市民一人ひとりのマナー向上を呼びかけるとともに、道路パトロールや地域のクリーン作戦などを継続している。長岡まつり大花火大会では、長岡花火財団が来場者に対し、ごみの持ち帰りや指定場所への排出を呼びかけている。公共ごみ箱については、ごみは自分で持ち帰ることを基本とし、当面は設置しない方針である。今後も、ポイ捨て防止の表示や3Rの推進にしっかり取り組み、美しいまち長岡を守っていく。
- ・学校の熱中症対策としては、児童生徒の安全確保を最優先に、活動前後を含め適切なタイミングで十分に水分補給を行うよう学校へ周知している。授業中の水分補給は、一律に時間を定めるのではなく、授業内容や教室環境に応じて判断する。また、一人ひとりに応じた学びを保障するため、タブレット端末などのICT環境を効果的に活用している。加えて、学びを進められる教室以外の居場所として、校内教育支援センターやほっとルームなども整えている。今後も多様な学びの機会と支援の充実に努める。

◆4班（高村 晋平 議員、鈴木 花音 議員、笠原 紗奈 議員）

【テーマ】長岡の魅力を高め、よりよく暮らしていくための施策について

【質問要旨】

- ・長岡の大事な文化である長岡大花火大会のチケットの転売について、応募用紙に「転売しません」という項目を追加し、応募する人に転売禁止を再認識してもらう取組が考えられるが、チケットの転売に対する課題認識と、現状の対策について伺う。また、違法駐車・迷惑駐車について、市がどのような対策をとっているのかを伺う。コーンを置くなどの対策だけでなく、「違法駐車・迷惑駐車でコンビニ利用者に迷惑をかけないで」といったポスターの掲示により、長岡を訪れる人へさらなる注意を促すことについて、市の考えを伺う。（鈴木 花音 議員）
- ・中高生になると憩いの場所や同世代との交流の場が少ないと感じるが、ミライエ長岡のように本を読んだり、休憩したり、勉強やイベントができる施設が川東地域に多い理由について伺う。また、川西地域には商業施設は充実している一方で、中高生が気軽に交流できる場所が少ないと感じていることから、川西地域にも同じような施設をつくる考えがあるのかを伺う。さらに、中高生の交流の場として、公園の整備、勉強ができる施設の充実、学校のグラウンド開放など、気軽に集まり交流できる環境の整備が必要だと考えるが、市の考えを伺う。（笠原 紗奈 議員）
- ・中学生の主な交通手段である自転車では走りづらい道路が多くあると感じていることから、そのような箇所を市がどのように把握し、どのような対策をとっているのかを伺う。また、自動車のドライバーの安心にも関わる問題でもあり、対策の優先順位をどのように決めているのか、道路管理の上で県や国とどのように連携しているのかを伺う。さらに、歩道と車道に大きな段差がある交差点などもあり、自転車だけでなく高齢者の歩行や車いす利用者の通行にも支障をきたすことから、歩道のフラット化や段差をなだらかなスロープに改修することが重要だと考えるが、市の見解を伺う。
（高村 晋平 議員）



◆答弁要旨

- ・チケットの転売は法律に反する行為であり、悪質な場合には警察による検挙の対象となる。市では、転売禁止の周知やサイト管理者への転売情報の削除依頼などに取り組んでいる。また、記名式チケットや電子チケットの試験運用など、転売を防ぐ仕組みについて長岡花火財団で検討が進められている。提案のあった、申込時に「転売しない」と確認する項目を設けることは、転売禁止の意識を高める有効な方法であり、長岡花火財団に提案していく。違法駐車や迷惑駐車については、路上駐車が多い地区で巡回警備を行っているが、さらなるマナー向上が必要である。ポスターによる啓発についても、経費面などを考慮しながら、積極的に採用できないか提案していく。
- ・アオーレ長岡やミライエ長岡などが中心市街地に整備されている背景には、長岡駅周辺が公共交通の結節点であり、各地域から集まりやすいという特性がある。一方で、川西地域を含め、中高生が身近に利用できる居場所を求める声があることも受け止めている。今後は、学校の空き教室、コミュニティセンター、図書館など、既存施設をこれまで以上に活用できないか検討していく。学校のグラウンドや図書室の開放については、事故やトラブルが発生した場合の責任、見守り体制、学校管理のあり方などの課題があるが、地域や保護者、学校が協力することで、より利用しやすい場所づくりにつながる可能性がある。学校運営協議会やPTAなどと連携し、各地域の実情に応じた方策を検討していく。
- ・自転車が安全に通行するための環境整備については、自転車は環境にやさしい移動手段である一方、事故防止のためには利用者が交通ルールを守り、ヘルメット着用など安全意識を高めることが重要である。市では、自転車ネットワーク計画に基づき、市全体で83キロメートルを目標に、カラー舗装や路面標示など、自転車の走行場所を分かりやすくする整備を進めており、現在約6割が完了している。今後は学校周辺など、自転車利用の多い場所を意識しながら整備を進めていく。また、歩道と車道の段差については、雪国特有の除雪や融雪への対応として一定の高さが必要な面がある一方、自転車や車いす利用者には通行しにくい箇所もある。視覚障害者が境界を確認しやすいことにも配慮しながら、段差を小さくしたり、なだらかな勾配にしたりするなど、誰もが利用しやすい道路づくりに取り組んでいく。

6 事前学習の様子

事前学習①

令和8年7月11日（土）10:00～12:00

会場：第2委員会室

●オリエンテーション、議会の役割や仕組み、一般質問について説明



【議会の役割・仕組み】

- ・ 議会は、住民から選ばれた議員が、地域の課題やまちづくりについて話し合う場である。
- ・ 条例や予算など、住民生活に関わる重要なことを決めるとともに、市の仕事が適切に行われているかを確認する役割を担っている。
- ・ 議員と市長はいずれも住民の選挙で選ばれ、それぞれの立場から意見を出し合い、よりよい市政の実現を目指している。



【一般質問について】

- ・ 一般質問は、議員が市に対して仕事の内容や取組について質問し、市の考えや方針をたずねるものである。
- ・ 「たずね」には疑問を解決する、方針を確認する、政策を提案するという意味があり、よりよいまちづくりにつなげる大切な機会である。
- ・ 質問する際は、現状、取組、今後の改善という流れを意識し、分かりやすく丁寧に伝えることが重要である。

●アイスブレイク(共通点探しゲーム)

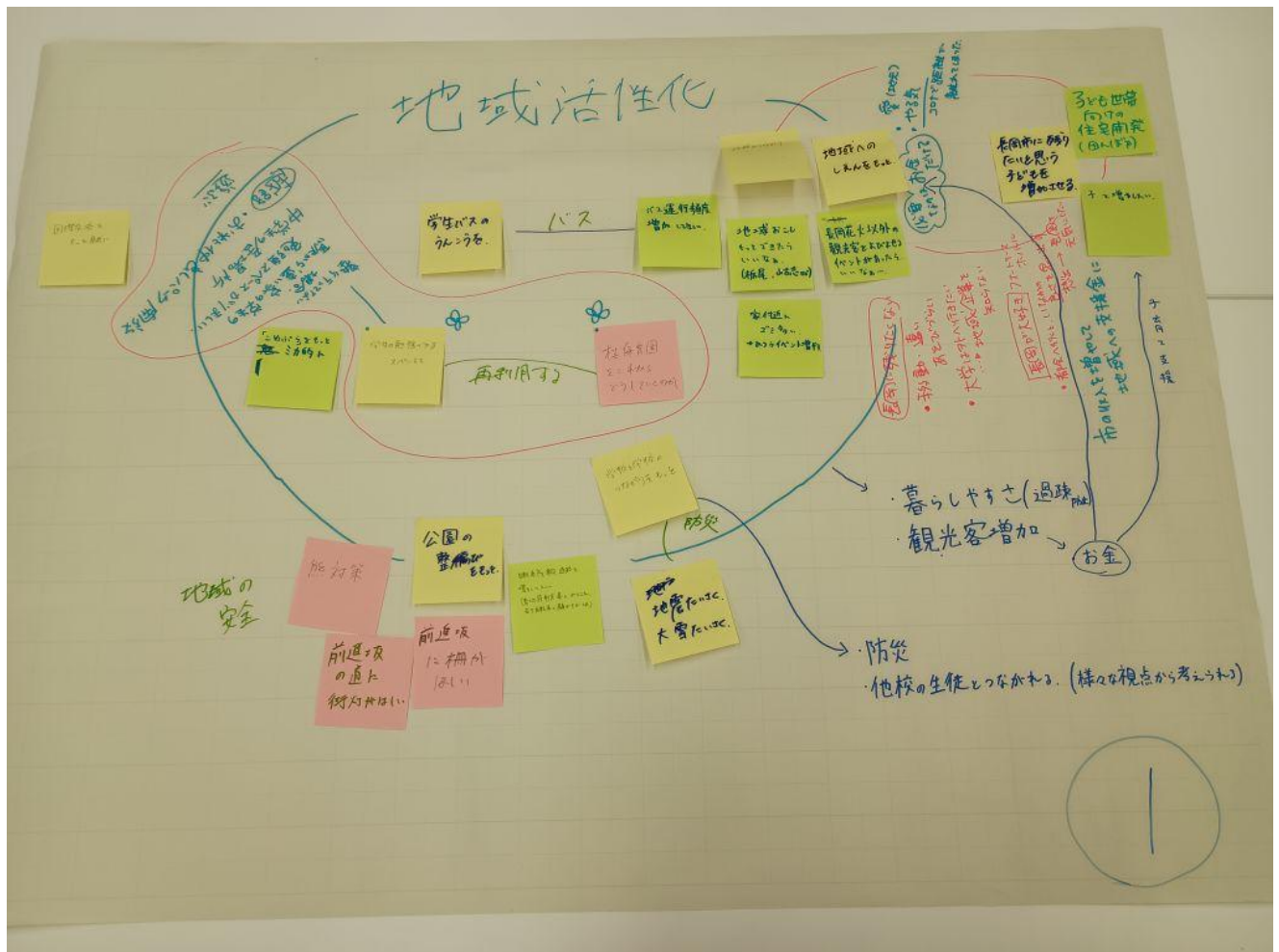
担当議員も含め初めて会ったグループ全員で「みんな犬が好き」とか、「みんな朝はパンを食べる」といった共通することを見つけ打ち解けました。

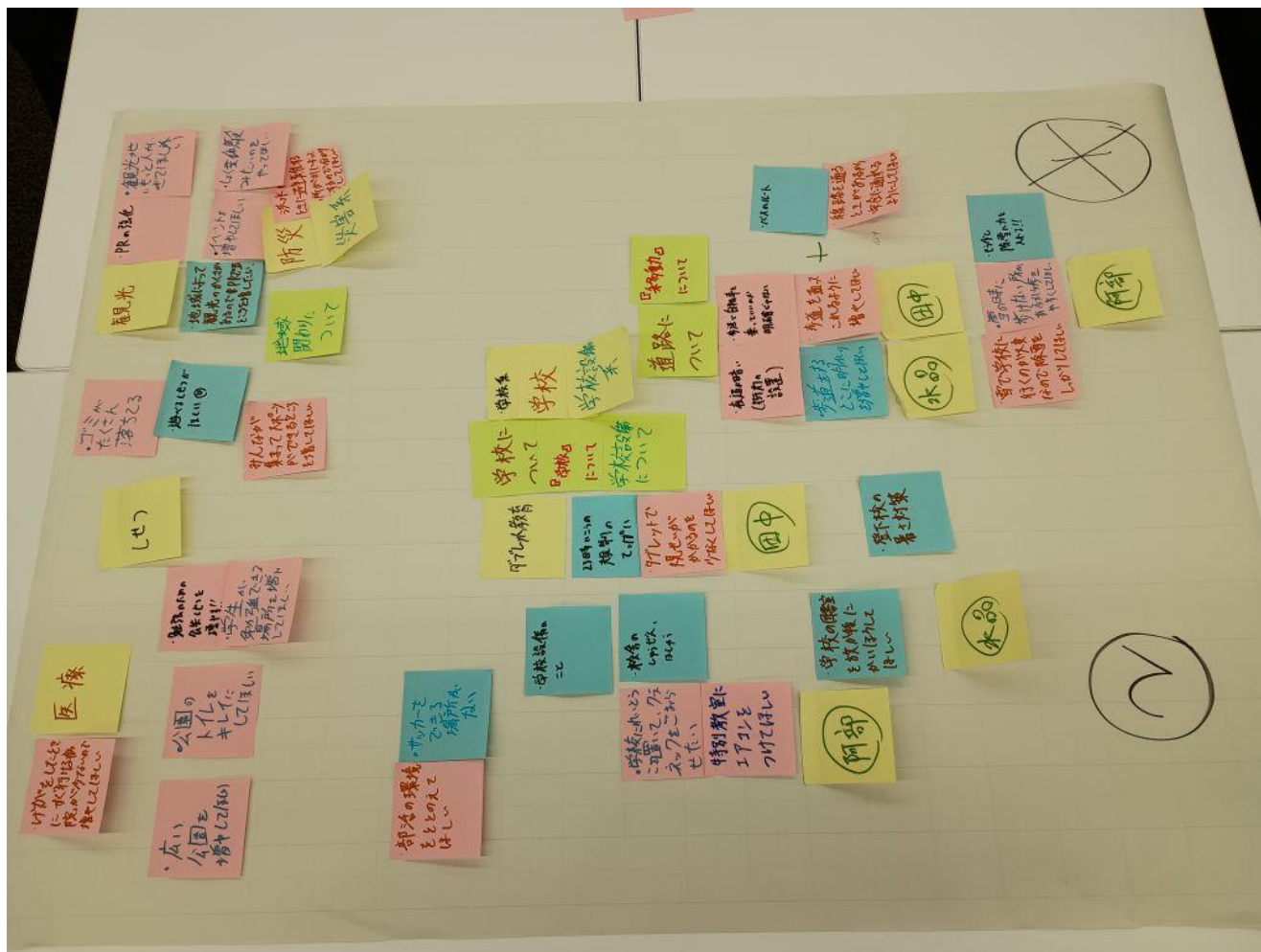


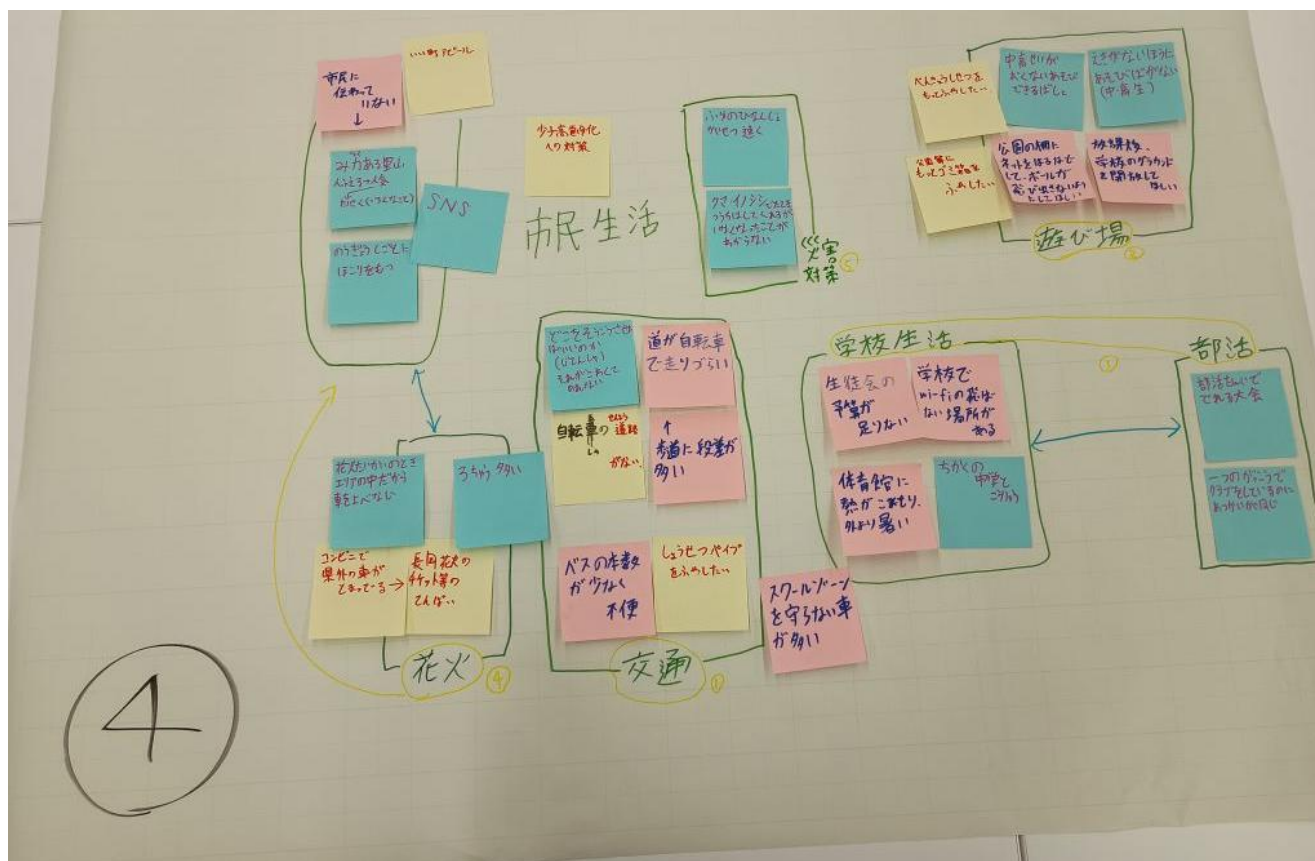
●グループワーク

- ・自分たちが感じている課題や関心ごとを可視化し、質問のテーマや具体的な質問などについて意見交換して、質問の構成を決定しました。
- ・各グループには、担当議員が入り、論点整理や質問の深掘りを支援しました。









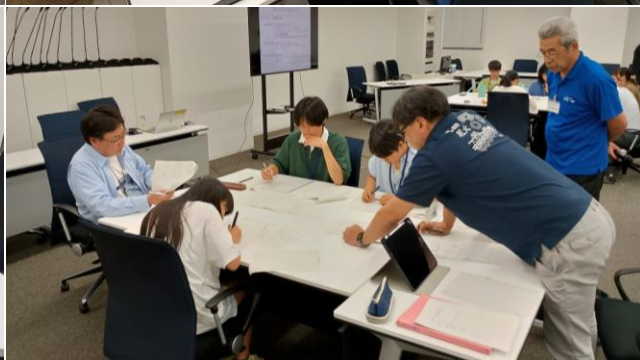
事前学習②

令和8年7月25日(土) 10:00~12:00

会場：第2委員会室、議場

●質問原稿のチェック・完成

宿題として各自分担して作成してきた質問原稿を読み上げながら、チェックシートの項目に沿って原稿を確認、修正して、質問原稿を完成させました。





●本番の会場となる議場でのリハーサル

本番が行われる議場でリハーサルを実施し、指名、登壇、礼の仕方、質問、降壇、着席といった一連の流れを確認しました。



資料を見ながら、一連の流れを説明！



議員がお手本となり、一連の流れを実演！

7 当日の様子

●本番前リハーサル



●中学生議員任命～開会あいさつ(議長)



●市政に対する一般質問





●市長答弁



●教育長答弁



●休憩中



●閉会あいさつ(副議長)～記念撮影



8 アンケート結果の概要

参加者アンケートでは、回答数 11 件、評価付き設問の平均評価点は 4.56 点、全体満足度は 4.73 点、肯定的回答率 100% でした。保護者アンケートでも、主体的な参加、有意義な経験、傍聴満足度のいずれも高い評価となりました。

※ 評価点付き設問とは、「とてもそう思う」を 5 点、「そう思う」を 4 点、「どちらともいえない」を 3 点、「あまりそう思わない」を 2 点、「そう思わない」を 1 点として点数化した設問。評価点は、各回答の点数を回答件数で加重平均して算出した 5 点満点の値で、肯定的回答とは、「とてもそう思う」および「そう思う」（5 点・4 点）の回答を指す。

1 参加者アンケート

回答数 11 件 (参加者 13 名、回答率約 85%)	平均評価点 4.56 点 評価付き設問 12 件中		全体満足度 4.73 点 肯定的回答 100%	高評価設問(4.0 点以上) 11 問
評価の高かった主な設問	評価点	肯定的回答	回答内訳	ポイント
Q2-3 自分の意見や考えを自由に出せた	4.82	11/11 件 100%	5 点 9 件、4 点 2 件	最も評価が高く、意見表明の体験が有意義だった。
Q2-4 協力して質問内容を考えてられた	4.73	11/11 件 100%	5 点 8 件、4 点 3 件	グループで協力して考える活動が高く評価された。
Q3-2 質問原稿の最終チェックをうまく進められた	4.70	10/10 件 100%	5 点 7 件、4 点 3 件	質問原稿の仕上げや確認も円滑に進められた。
Q5-1 全体として満足できた	4.73	11/11 件 100%	5 点 8 件、4 点 3 件	事業全体への受け止めは非常に肯定的。
Q5-3 議会やまちへの関心が高まった	4.64	11/11 件 100%	5 点 7 件、4 点 4 件	市政・議会への関心を高める効果が確認できた。
Q5-4 考えをまとめて伝える力が高まった	4.73	11/11 件 100%	5 点 8 件、4 点 3 件	発表や原稿作成を通じた成長実感を得ている。
Q5-5 今回の子ども議会で印象に残ったこと				
・もともと関わりのなかった人達と関わって、市の課題について考えと意見を深められて良かった。 ・自分の「地域をこうしたい」という正直な思いを市長に直接伝えるという貴重な経験ができて良かった。 ・いろいろな人の意見を聞いて、「確かに」と思ったことがたくさんあった。自分の視野が広がったように思う。				
Q5-6 改善してほしい点				
・他のグループとの話し合いがあっても良い。 ・グループワークにおいて、質問原稿を推敲する時間がもう少しあると良かった。 ・原稿の役割分担の際、具体的に人ごとに「字数は○字で、ここからここまで」と指定すれば、もっと効率的に進めることができたと思う。 ・家で宿題するときに、議員の方とやりたいと思うことが多くあったので、もう一回くらい集まりを増やしても良い。				

2 保護者アンケート

評価の高かった主な設問	評価点	肯定的回答	回答内訳	ポイント
Q3 お子様は主体的に参加できていたと思いますか。	5.00	5/5 件 100%	5 点 5 件	主体的な参加が保護者からも確認された。
Q8 子どもにとって有意義な経験になったと思いますか。	5.00	5/5 件 100%	5 点 5 件	学びや経験価値が高く受け止められた。
Q10 子どもたちの質問（発表）について、感想をお聞かせください。				
・一人ひとりが自分の身近なところで、気づいた点、疑問を発表していて、とても良かった。 ・子供達らしい目線でのリアルな質問でとても良かった。 ・中学生の熱い思いが伝わっていい機会になった。 ・事前準備がしっかりとされとおり、緊張感の中でも自信を持って質問しており感銘を受けた。				



令和 8 年度（2026 年度） 長岡市子ども議会 活動報告書

編集・発行

子ども議会実行委員会

〒940-8501

新潟県長岡市大手通 1 丁目 4 番地 10

長岡市議会事務局

TEL：0258-39-2244

E-mail：gikai@city.nagaoka.lg.jp